

バリアフリー学習から考える街の現状と今後の検討課題

Current status of the city and future issues to be considered from a barrier-free study

渡谷 能孝（函館大谷短期大学） Yoshitaka WATARIYA

要 約

本研究では、魅力ある街として知られる函館のバリアフリー環境について、現状と今後の方向性について検討することを目的に調査を行った。

検討及び今後の課題としては、これからますます深刻になる高齢化率の上昇と共に、住みやすい魅力溢れる街を構築するために観光地はもちろんのこと、各商業施設や病院、公共施設等の更なるバリアフリー化を推進していく、街全体として考えていくことの重要性を確認できた。

今後は、障がい者、高齢者といった地域住民の方々はもちろん、観光で来函される方々を対象とした調査へ発展させることで、街の魅力向上に向けた具体的なバリアフリー化の方向性に期待が持てる。

キーワード：バリアフリー 障がい者 高齢者 街 魅力

はじめに

函館市は、異国情緒あふれる街並みや歴史的文化遺産などの観光資源に恵まれた魅力ある観光地であり、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年、来函観光入込客数推計(2019)の合計は約536万9千人と、多くの観光客の方が函館を訪れている。民間シンクタンクである株式会社ブランド総合研究所(2006～2022)が年1回実施している「地域ブランド調査」の市町村別ランキングにおいては、2006年の調査開始から上位に位置し、2007年に4位となった以外は上位3位以内に位置し、魅力ある街として全国にその名を轟かせている。

しかし、魅力ある都市として全国にも知られている函館ではあるが、令和4年11月末時点での高齢化率は36.7%と全国平均の29.1%より7.6%も高く、特に函館山麓の西部地区と呼ばれている歴史的建造物が多く立ち並び観光客の多くが訪れる地区的齢化率は39.6%と、函館市内においても非常に高い割合で、地区的過疎化が進み、空き家も多くなっている。また、函館市民422人(西部地区住民以外)を対象に調査した函館市西部地区居住意向(2019)のアンケートにおいては、「住みたい・どちらかというと住みたい」と回答した人の割合が12.1%であるのに対し、「住みたくない・どちらかというと住みたくない」と回答した方が56.2%と、圧倒的に居住意向の対象となっていない地区であることがわかる。

函館の観光資源でもある歴史的建造物が立ち並び、風情溢れる魅力的な街並みの函館西部地区ではあるが、医療施設や商業施設等が徒歩圏内に不足しており、傾斜の急な坂道が多くあり、徒歩や自転車等での移動が不便な場所も多い。特に障がい者や高齢者の移動にとって、快適とは言い難い環境であることは明確である。

この先も魅力ある函館を維持していくためにも、風情溢れる魅力的な街並みを維持しつつ、誰もが安心して自由に移動できるバリアの少ない街づくりに取り組むことが大切であり、来函される観光客の方はもちろんのこ

と、地域住民にとって生活しやすく、社会参加が可能な街となることが、より一層の発展に寄与する可能性が高いのではないかと考える。

そこで本研究では、学生自身が住む、または通学している函館市におけるバリアフリー化の現状についてアンケート調査し、新たな街づくりへの取り組み向けた課題について検討する。

1. 目的

本研究では、学生自身が居住、または通学している函館について、街のバリアフリー化に対する現状と今後の検討課題を明確にすることを目的とした。

2. 方法

2-1 調査機関・対象

- ・アンケート実施日：令和4年12月1日
- ・調査対象：H短期大学こども学科2年生のうち32名を調査対象とした。

2-2 分析方法

統計処理は、調査対象の傾向把握のために単純集計とした。データの入力、表およびグラフ、統計処理に関して、Microsoft office Excelを用いた。

2-3 倫理的配慮

本研究は、アンケート調査に協力する学生に対し説明を行い、調査協力の了承を得て行った。

3. 結果

アンケート調査においては、過去3～5年程度前から函館に居住、または函館市内へ通学している学生の中で、バリアフリー講義を受講した学生を対象としたため少人数の調査対象となつたが、現状と今後の取り組みに関する課題を把握できるものとなつた。以下、調査結果を見ていく。

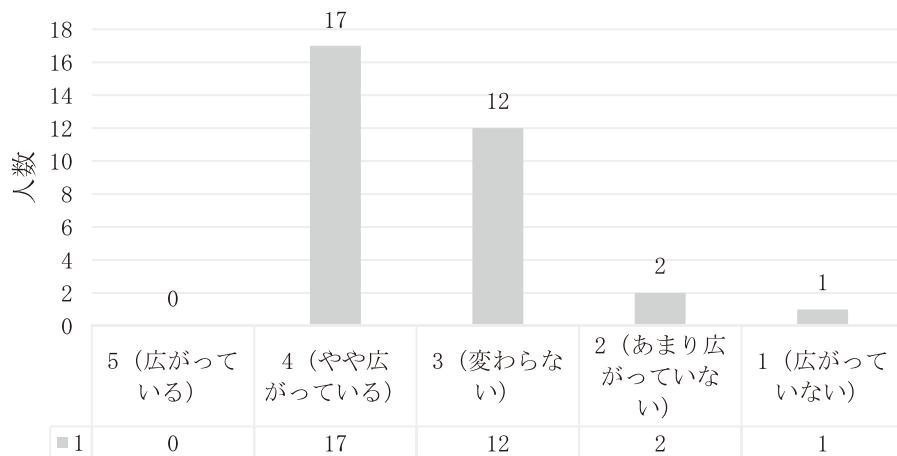


図1 世の中がバリアフリーへの理解が広がっている
と思いますか

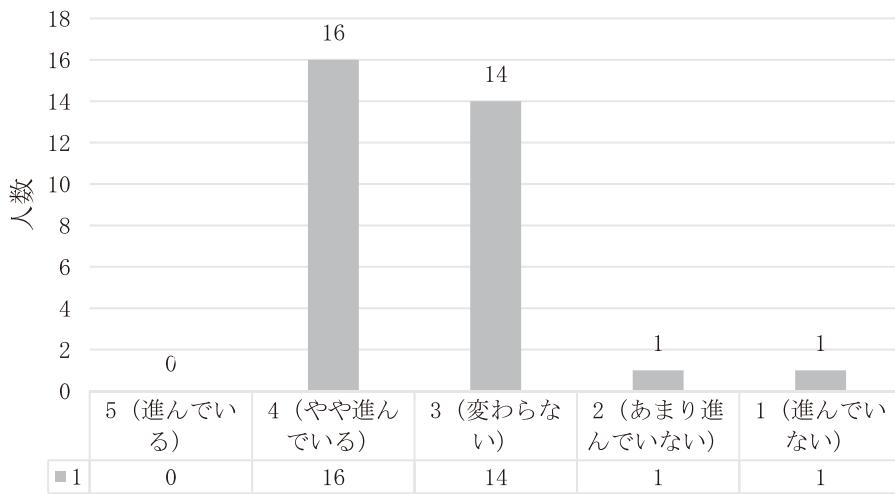


図2 函館市内の施設はバリアフリー化が進んでいると感じる

図1、図2では、「やや広まっている」、「やや進んでいる」と回答した学生が51.5%と半数を占めている。これは、バリアフリーが世の中に広く認知され、障がい者、高齢者にとって利用しやすい環境が整ってきていていることを示すとともに、バリアフリーに対する興味、関心についても伺えた。また、学生が実習を経験する障がい者施設等の印象も大きく関係していることが、「やや進んでいる」と回答した一つの要因ではないだろうか。

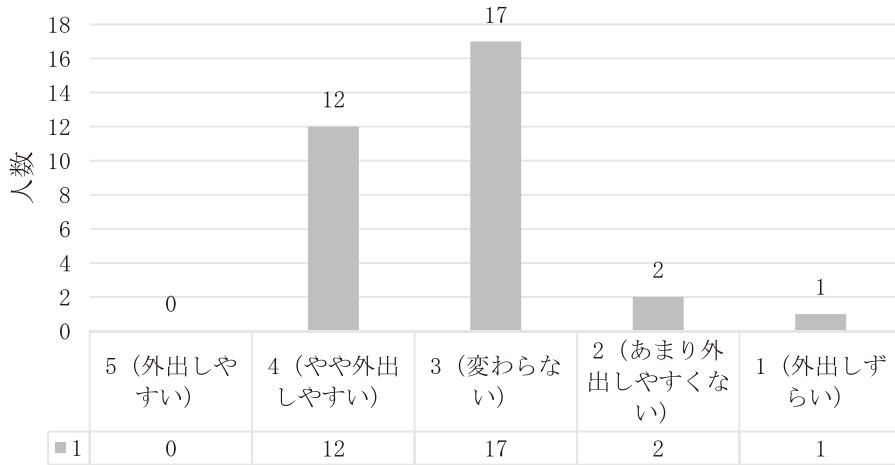


図3 障がい者や高齢者が外出しやすい社会になったと思いますか

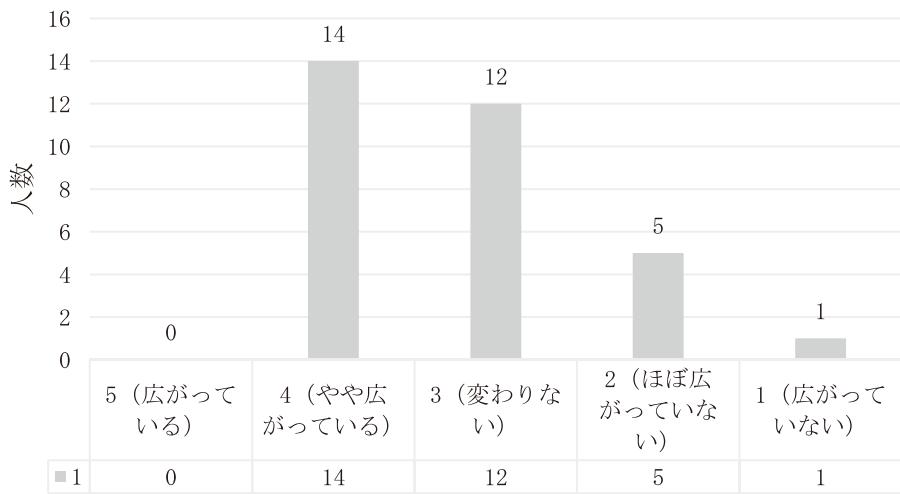


図4 人々の心のバリアフリーが広がっていると感じる

図3, 図4を全体的にみると、概ね「やや外出しやすい」、「やや広まっている」の回答が多い。特に図4からは、物理的な側面だけではなく、意識的なバリアの除去に関するものよりも以前よりも進んでいることがわかり、誰もが障がい者、高齢者への配慮に関心を抱いていることを示している。

昨今の地域社会は、相互扶助機能の弱体化が顕著と言われている中、函館は地域の支えあいから、人の温もりに触れることができる街であることが垣間見ることができた。

表1 図1から図4について、更なる推進への自由記載

1	地域社会における無関心、関係性の希薄がバリアフリーへの関心のなさも示している。
2	バリアフリーへの啓発活動を積極的にするべき。
3	もっと地域住民が声を上げる。
4	障がいを抱える方との接点を増やすきっかけづくり。
5	講習会や義務教育の中での学習。

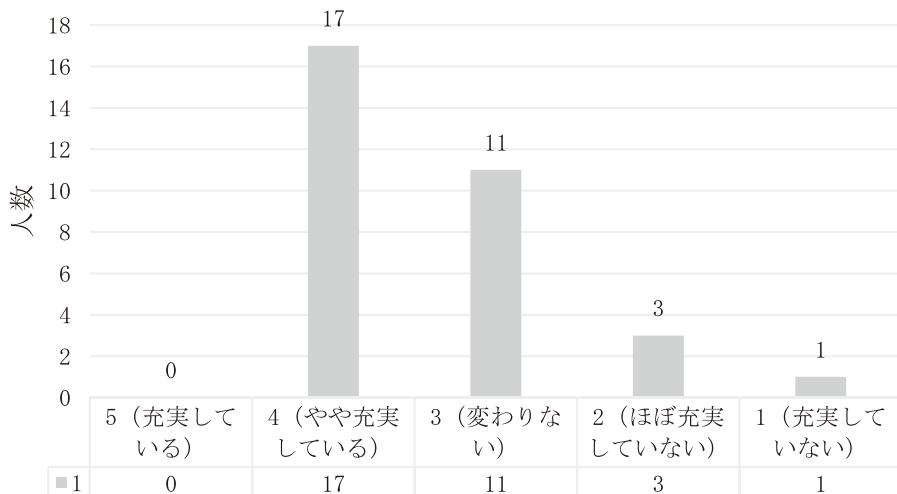


図5 バリアフリー教育について充実していると思いますか

図5は、バリアフリー学習直後のアンケート調査でもあり、53.1%の学生が「やや充実している」と回答した。もちろん、今回のバリアフリー学習以外にも、障がい者施設等における実習等では支援者として当事者とかかわる機会もあり、その経験がバリアフリー教育への効果をもたらしている。

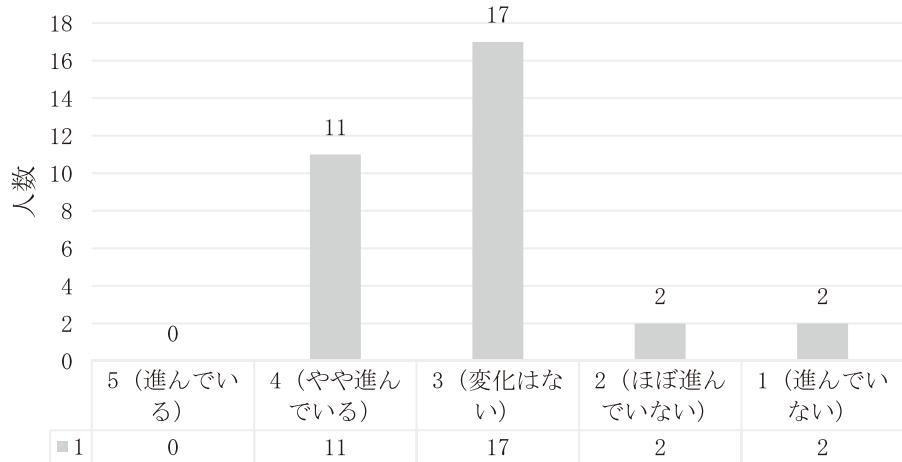


図6 地域に住む障がい者、高齢者への理解は進んでいると
感じますか

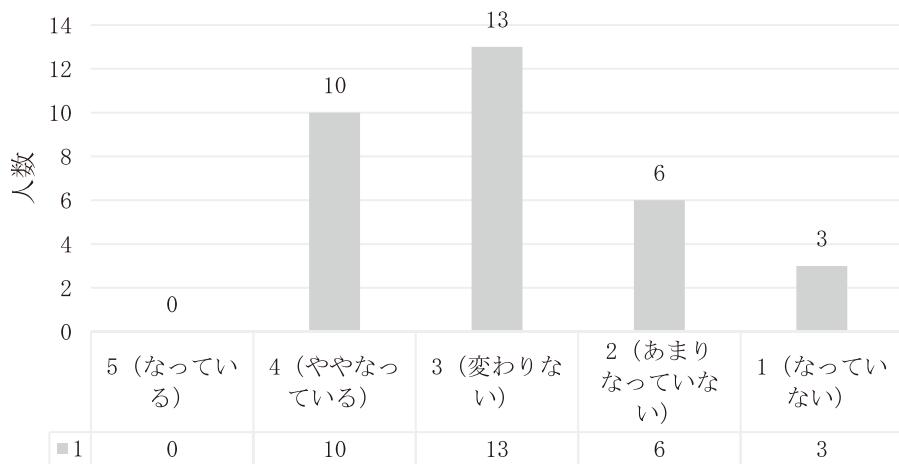


図7 函館市は安心して出かけられる「街」になっていると
思いますか

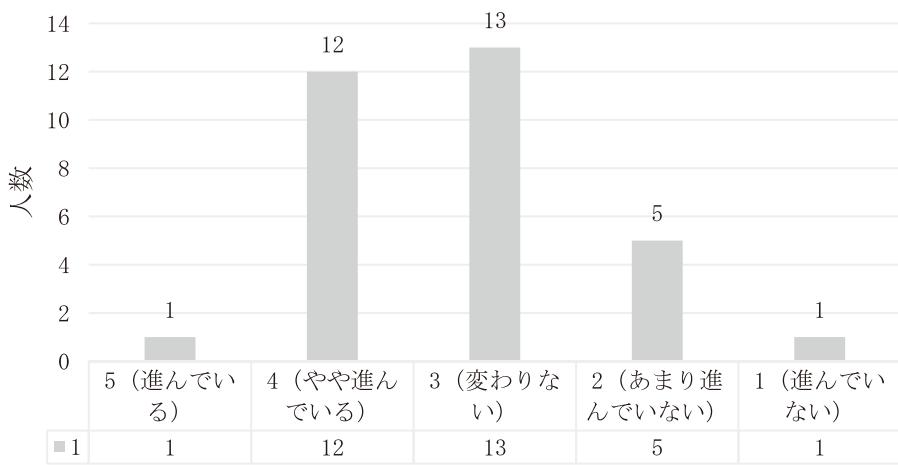


図8 函館圏の商業施設、福祉施設、学校等の多くの方が利用する施設のバリアフリー化についてどう思いますか

図6からは、学生が共生社会について理解していることを示しているが、「共に生きる」といった視点を地域社会全体から考えたときに、まだ不十分であると感じていることがわかった。また、図7、図8においても同様で、地域社会全体から考えると「変わりない」と感じている学生が合わせて44.7%ということを考えると、社会全体から変化しない限りは、このまま同じ状況が続いてしまうであろう。

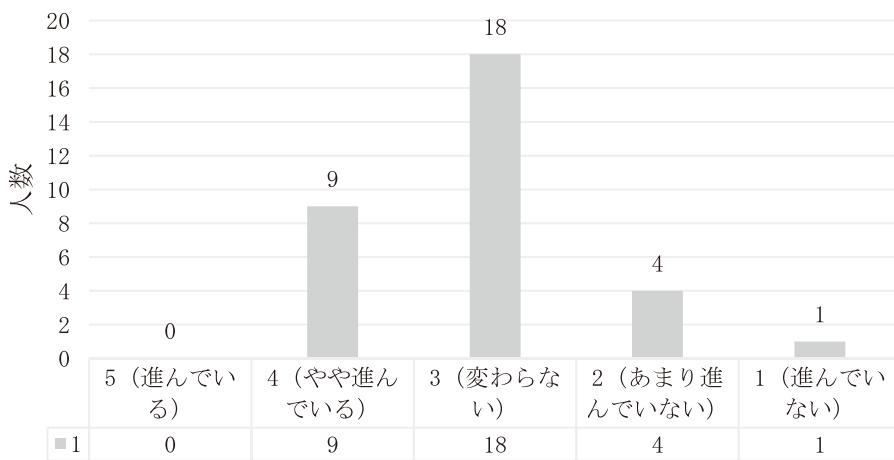


図9 函館市内の施設設備等は、障がい当事者の参加（意見の反映）が進んでいると思いますか

図9の結果は、今後の課題を明確にしている。障がい者の「自立」は、支援を受けつつ地域社会で自分らしく生きていくことが当然であり、このことは高齢者も同様といえる。共に同じ街に居住する、または街を利用する人々は、当事者目線で物事を考えることの重要性を理解し、これから住みやすい街づくりにつながることを再認識できた。

表2 その他「バリアフリーの街づくり」に対する意見や提案の自由記載

1	公共施設においては、バリアフリーが常識となる地域になってほしい。
2	バリアを感じている当事者の声を無駄にせず、まずは意見を聞くことが当たり前にできる地域にな ってほしい。
3	もっと地域住民が声を上げることが必要。

4. 今後の検討課題

1. 商業施設や病院、公共施設等といった施設設備のバリアフリー化を街の充実として考えることだけではなく、その土地に住み、生活している人を意識し、幅広い年代に調査対象者を増やした上で、更なる魅力を感じる街づくりのためのバリアフリー化を検討していく必要性がある。
2. 当事者を交えた施設設備の利便性調査等を実施し、施設設備の環境改善、魅力ある街づくりに役立てる必
要がある。

5. 参考文献

- ・神奈川県(2019)神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議
- ・函館市観光部観光企画課(2019)来函観光入込客数推計
- ・函館市(2019)函館市西部地区再生備事業基本方針
- ・ブランド総合研究所(2006～2022)地域ブランド調査

アンケート調査

【住まい】

市町

※回答欄について

5段階評

5 . 4 . 3 . 2 . 1

1. 現在の状況

問 1-1 バリアフリーに関する以下の事項について、以前（3～5年前）と比較して、自身が住む、または通学している函館市の印象を答えてください。

(そ う だ と 感 じ る 番 号 を ○ で 囲 ん で く だ さ い)

(1) バリアフリー全般に対する理解が広がっていると感じる。

広がっている	やや広がっている	変わらない	あまり広がっていない	広がっていない
5	4	3	2	1

(2) 施設整備のバリアフリー化が進んでいると感じる。

進んでいる	やや進んでいる	変わらない	あまり進んでいない	進んでいない
5	4	3	2	1

(3) 障がい者や高齢者等が外出しやすい社会になったと思いますか。

外出しやすい	やや外出しやすい	変わらない	あまり外出しやすくない	外出しづらい
5	4	3	2	1

(4) 人々の心のバリアフリーが広がっていると感じますか。

広がっている	やや広がっている	変わらない	あまり広がっていない	広がっていない
5	4	3	2	1

問 1-2 今後問1（1）～（4）について、より推進するためには必要なことがありましたら記入してください。

--

2. 現在の進展状況と今後

問2 次の内容について、以前（3～5年前）と比較してどのように思うか、印象を答えてください。

（そう思う番号を○で囲んでください）

（1）バリアフリー教育について充実していると思いますか。

充実している	やや充実している	変わらない	あまり充実していない	充実していない
5	4	3	2	1

（2）地域に住む住む障がい者、高齢者への理解は進んでいると思いますか。

進んでいる	やや進んでいる	変わらない	あまり進んでいない	進んでいない
5	4	3	2	1

（3）函館市は安心して出かけられる「街」になっていると思いますか。

なっている	ややなっている	変わらない	あまりなっていない	なっていない
5	4	3	2	1

（4）函館圏の商業施設、福祉施設、学校等の多くの方が利用する施設のバリアフリー化についてはどう思いますか。

進んでいる	やや進んでいる	変わらない	あまり進んでいない	進んでいない
5	4	3	2	1

（5）施設整備の際、障がい当事者の参加（意見の反映）が進んでいると思いますか。

進んでいる	やや進んでいる	変わらない	あまり進んでいない	進んでいない
5	4	3	2	1

3. その他「バリアフリーの街づくり」に対する意見・提案